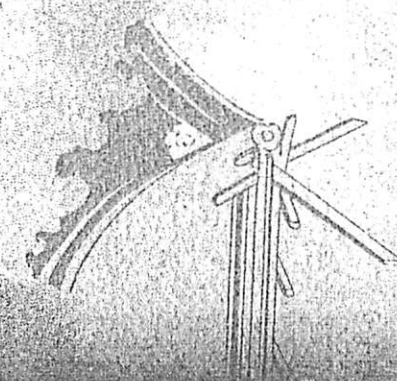
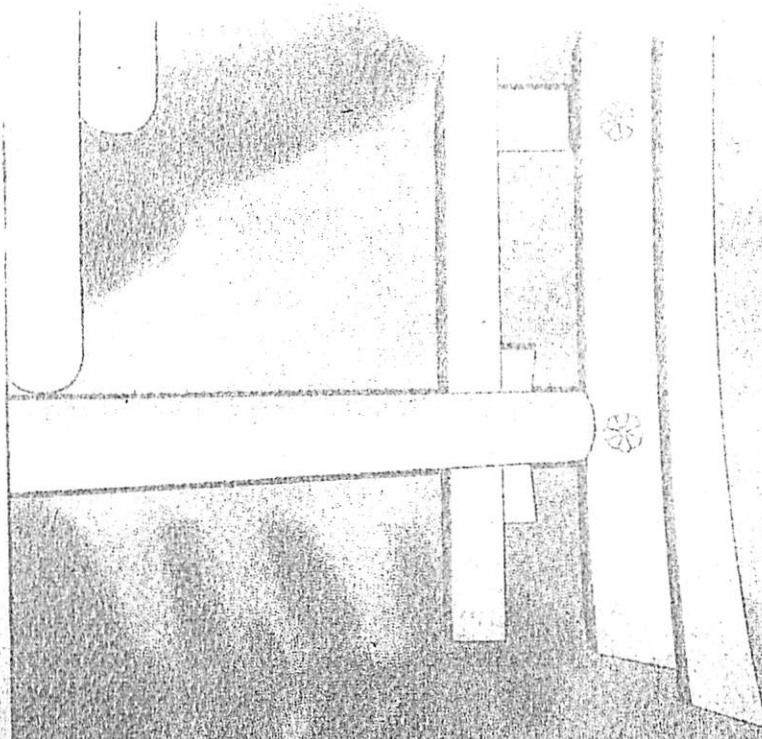


第五回明治神宮体育大會報告書



第五回

明治神宮體育大會

參加章



(大物實)

第五回明治神宮體育大會報告書目次

一、光榮に輝く神宮體育大會

秩父總裁宮殿下御推戴……………一

天皇陛下行幸次第……………一

第五回明治神宮體育大會開く……………三

天覽に輝く日……………三

明治神宮體育會規約……………五

第五回明治神宮體育大會一覽……………五

二、競技成績

陸上……………七一	排球……………三三	射擊……………五五
ホッケー……………三九	剣道……………三九	柔道……………二九
相撲……………三九	馬術……………三九	拳闘……………二九
弓道……………三九	野球……………三九	庭球……………三九
籠球……………三九	蹴球……………三九	スキ……………三九
漕艇……………三九	ラグビー……………三九	水泳第一部……………三九
水泳第二部……………三九	體操……………三九	

三、競技概評

陸上	一	排球	一	射擊	一
ホッケー	一	剣道	一	相撲	一
馬術	七	拳闘	九	野球	八
テニス	九	籠球	七	スキ	一
潜水艇	一五	水泳第一部	一五	水泳第二部	一五
體操	一六				

四、準備計畫

陸上	一	排球	一	射擊	一
ホッケー	三	剣道	三	相撲	三
馬術	一	弓道	三	庭球	七
籠球	七	スキ	七	水泳第一部	一〇
體操	一三	水泳第二部	一七		

五、總務部事項及會計報告

評議員會	一
總務委員會	二
會計報告	八

光榮に輝く第五回神宮體育大會

# 野球成績

野球部委員

野球試合は中等學校試合の他に昭和四年秋の六大學リーグ第一位對第二位の決戦（模範試合）即ち早慶野球戦が行はるゝ事となつた。

一日は午前八時半より神宮球場にて中等學校の二試合を終つた後、聖上陛下が行幸になつて早慶戦を天覧になつた番外とは云へ早慶戦の人氣は素晴らしく加ふるに天覧試合と云ふので兩軍の意氣は更なり、觀衆又前夜來つめかけて物々しかつた。

## 早大對慶大戦

### 十二對零＝慶大大勝

榮へある御前試合、陛下の御着前に早慶兩軍選手入り自由打撃に守備練習を行ひ特に許された應援團の母校選手を勵けませ聲は天に轟くかとはかり響き渡る時は次第に迫り参加選手全部ホームを中心に整列奉迎の準備全く成れる時唖啞たる軍樂隊の君ヶ代吹奏され池田審判「敬禮」の號令に選手一同最敬禮する、適かに拜すれば 天皇陛下には折柄の秋風をも厭はせられず、秩父總裁宮殿下の御先導にて玉座へ出御された、池田審判の發聲で觀衆四萬が起立して萬歳を三唱、その聲は場を震はす

ようだ、二時三十五分天知主審横澤、池田、新田三氏壘審、兩軍第一投手を陣頭に立てベストメンバーにて對陣、天知主審の

「プレール」に慶應先攻したが、畏くも天皇陛下におかせられては此寒さにマントを御脱ぎ遊ばされて兩軍應援團の聲援兩ナインの活動を御興深げに御覽せられ、試合に關しては秩父宮殿下を通じて安部、長與兩顧問より夫れく言上した。

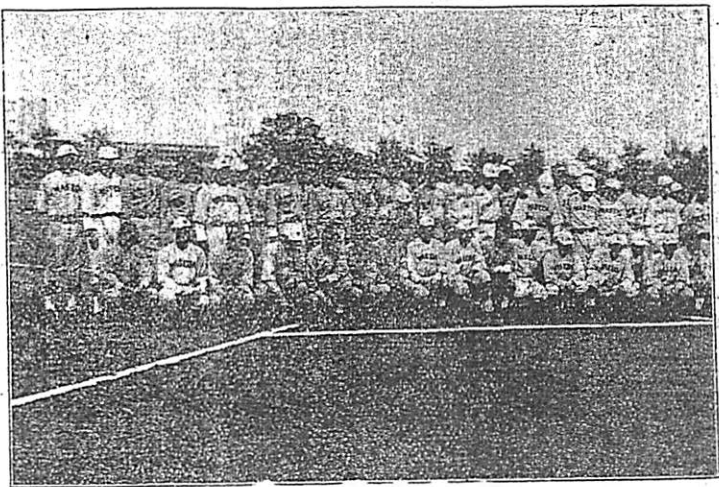
早	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一	二	三	四	五	六	七	八	計											
慶	0	0	0	5	4	1	0	2	0	12									

早慶兩軍選手

△第一回 慶應楠見第一球を一二間へ安打して出て梶上のバントに送られ山下四球に小川投手のスタート好調を缺く、宮武大きく右翼に飛球をあげれば犠打となつて楠見三進山下も盗壘。水原ファウルで粘り四球を強取して満塁となつたが三谷二匍にて終る。早大水原三匍、矢島、伊丹遊匍。

△第二回(慶) 町田三匍ファンブルに出て岡田に送られ加藤の二匍に三進したが楠見三匍で無爲。早大は宮武の好投野手の巧守に阻まれて森遊匍水上三振、佐藤中飛。

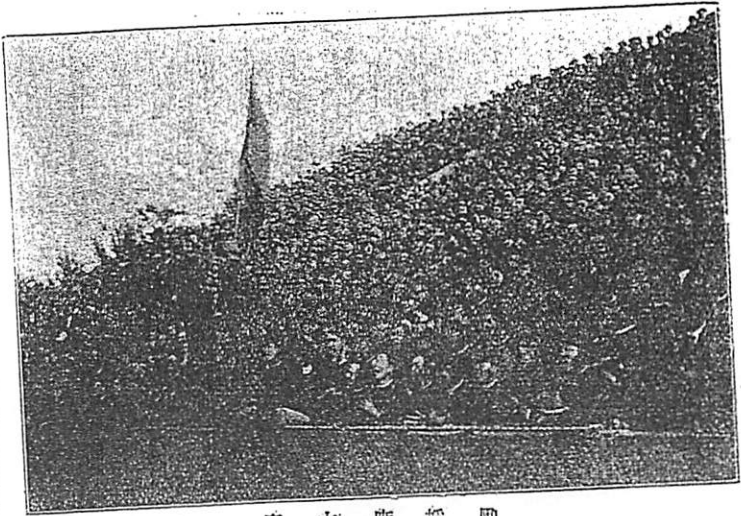
△第三回 慶應梶上左飛の後山下四球に出たが宮武の遊匍に封殺されて二死となつた、而し水原中前へテキサスを放ち三谷遊



匍失に満壘小川投手の左腕は遂に亂れて町田にストライク一つの四球を興へて一點を献上、續く岡田は二一の右の球を強く

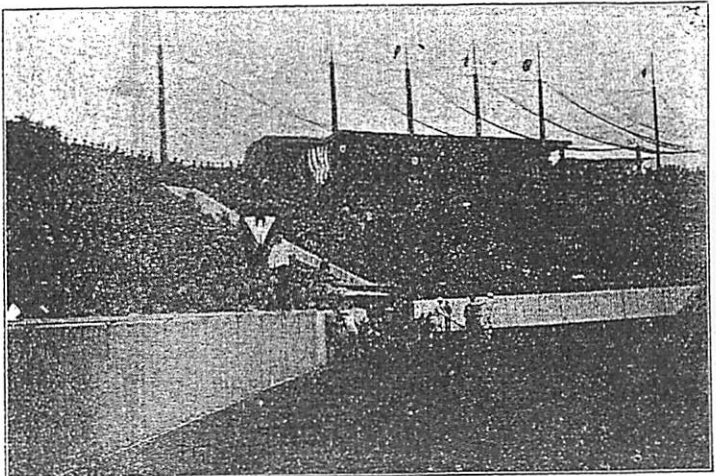
たぐけば球はぐんぐん延びて中堅越三壘打となり走者を一掃し岡田主將感激の餘り三壘上にしばし茫然と直立する。次の加藤も遅れじと一二間を抜いて岡田を還へし計五點を得る。加藤は楠見の第三球目を盗んだが失敗に終る。早大は一死後小川が三匍一失に出たが後援續かず。三十分の御豫定を延ばされた陛下には此の回の終るや諸員最敬禮の中總裁宮殿下各宮殿下を始め奉り濱口首相以下の御奉送を受けさせられ國家吹奏裡に還幸遊ばさる。

慶大應援團



△第四回試合は再開され慶軍第一打者よりの攻撃楠見四球を選び直ちに二盗梶上のバントに三進捕手三壘牽制三壘手後逸して楠見生還山下手に死球を喫し、小川退き松木投手となる。次の宮武は遊撃安打山下一舉三進宮武も中堅手の三投する隙に二盗。早軍全く元氣なく伊丹主將の激勵も効なし。水原二直に宮武危く併殺されんとしたが生く、三谷投手足下を抜いて山下宮武續いて生還野手本投する間に三谷も二進。町田四球、岡田への第一投プレットに落ちて暴投となり走者進壘、松木制球力無く岡田、加藤に連續的四球を興へて押出しの一點を呈し打順一順再び楠見ボックスに入り、早大投手

多勢となり松木退く。期待されたが二飛で慶軍の猛襲は收まる。此の回四點を得て試合の興味を失ひ惡彌次ほつく聞ゆ。



早大應投團

△第五回慶楯上直線の四球に出壘山下三振の後宮武左翼線近くへ二壘打して楯上一擧に生還水原の三捕に宮武三進したが後援なし。早大水右中間へ痛烈な當りを送つたが快足捕見身を挺して捕へる佐藤中飛西村三振に依然振はず。九對〇の儘戦は後半に入る。

△第六回 慶は町田二捕、岡田中飛、加藤二直に始めて走者を出さず。早大は富永左直失水原も遊捕失で富永二進したが矢島の投捕に封殺され伊丹捕邪飛で得點に至らず。

△第七回慶應捕見セーフテイバント内野安打となり楯上の中前安打に三壘へ滑り込み楯上も二壘へ、山下遊撃強襲安打に捕見生還楯上三進、宮武の遊捕山下を封殺したが楯上を還へす、水原三振して二死となるも三谷中堅右へ安打して尙好望に見えたが町田中飛で残壘。早大軍三者内野へ打つて凡退。晩秋の陽脚短かく夕闇グラウンドに迫る。

△第八回慶應一死後加藤三捕後逸に出たが後援なし。早大攻めるや場内益々暗くスタンドの煙草の火が徒らに明るく見え白い繪畫館のドームがボンヤリ霞む、早大西村に代つた杉田屋二捕、ピチン伊達も三振、富永中飛で終に三壘を踏むもの無し此折陽は全く暮れて試合續行不

可能の爲めコールドゲームを宣せられた、遂に榮えある天覽試合は十二對零で慶應の手に歸した。兩軍選手は審判を中心に日暮れる最後まで御熱心に御見物遊ばされし總裁宮殿下以下各宮殿下を御奉送申し上げた。試合終了後兩校應援團のエールの交換、慶軍應援團の合唱する君ヶ代の強いバスの響が外苑の空気を振はした。

早稲田	打安	打打	打打	打打	打打	打打	打打	打打	打打	打打	打打	打打	打打	打打	打打	打打	打打	打打	打打	打打
(中)水原	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(右)天島	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
(捕)伊丹	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(三)森上	3	0	0	0	1	0	3													
(二)水藤	3	0	0	0	1	0	0													
(左)佐藤	3	0	0	0	0	0	0													
(一)西村	2	0	0	0	1	0	0													
(H.P.)杉田屋	1	0	0	0	0	0	0													
(投)小川	1	0	0	0	0	0	0													
(投)松木	0	0	0	0	0	0	0													1
(投)多勢	1	0	0	0	0	0	0													0
(H.P.)伊達	1	0	0	0	1	0	0													0
(遊)富永	3	0	0	0	0	0	0													1
	27	0	0	0	4	0	6													

慶應	打安	打打	打打	打打	打打	打打	打打	打打	打打	打打	打打	打打	打打	打打	打打	打打	打打	打打	打打	打打
(中)楠見	5	2	0	1	0	1	0													
(右)楯上	2	1	2	0	0	1	0													
(右)堀下	1	0	0	0	0	0	0													
(一)山下	2	1	0	1	1	3	1													
(投)宮武	4	2	1	0	0	0	0													
(三)水原	4	1	0	0	1	1	0													
(二)三谷	5	2	0	0	0	0	0													
(左)町田	3	0	0	0	0	2	1													
(捕)岡田	3	1	1	0	0	1	0													
(遊)加藤	4	1	0	0	0	1	1													
	33	11	4	2	2	10	3													

田武〇三  
岡宮  
慶早  
打打壘  
打打壘  
三二殘

### 中等學校試合

### 第一回戦

試合に先立ち前回の優勝校愛知商業より優勝旗を平沼副會長の手に返還小橋文相の始球式ありて直ちに神港對諏訪の試合は開かれる。



神港商業對諏訪蠶糸 (神宮球場)

九對三 神港勝つ

八時十分伊藤(球)堀、牧野(壘)三氏審判の下に行はる。

神港先づ攻め第一回神港西垣、高瀬各單打あるも兩軍事無く第二回は神港二死の後倉の三罰失中根、島の安打に二點をリードする。第三回に入つて諏訪亂れ投手中村(三)は後藤西垣に痛打され遊撃のワイルドあり四點を加へられて中村(好)にプレートを譲る、中村(好)もコントロール悪しく押し出しの一點を與へて七點をリードされる第五回は平凡に終り第六回神港三者凡退の後三安打四死球に三點を復したが第七回中村好再び荒れ四球にて満塁となし西垣に左翼へ安打されて二點を加へ其の後兩軍入らず結局九對三に神港先づ一勝。

〔諏訪〕  
 (中)伊藤居手  
 (遊)武柳  
 (捕)柳  
 (一投)中村(好)  
 (三)中村(三)  
 (左)山下  
 (二)小口  
 (三)金子  
 (右)今井

〔神港(先)〕  
 (一)後藤  
 (二)島岡  
 (三)寺岡  
 (左)西垣  
 (右)高瀬  
 (三投)岸本  
 (遊)濱崎  
 (右)釣島  
 (右)高島  
 (捕)倉根  
 (中)中根

二壘打 西垣

打安犠盜三四失	打安犠盜三四失
數對打壘振死策	數對打壘振死策
三二九	二七三
一四六五	〇四一一
〇	三

鳥取一中對廣島商業 (神宮球場)

三A對二 廣商勝つ

續いて十時三十九分球審錢村君の宣告に鳥取先攻に開始される壘審は小林鷲尾の兩君。第一回鳥取凡退の後廣商は立上りさま猛烈な鐵砲を京谷投手に浴せる原先づ良い當りで遊撃を襲ひて退き田中は初球遊撃の横を抜いて出で太田四球に續く甲子園の殊勳者灰山左中間深く打ち轉々弊に達する三壘打となつて二者を還へし杉田の右風を犠打として計三點を先取す其の後二三回は兩軍良く守り三回に廣商太田灰山の安打あるも二死後にて無爲第四回に入り鳥取追撃を開始竹谷、多田と安打を續け京谷ペントにて二者を進め千谷四球で満塁となる時田村二壘上を抜いて二者生還其の差を一點に縮め尙走者二壘にあつたが續く二者共に左飛にて無爲。其の後兩軍殆ど毎回走者を出すも空しく戦は前半に決せられた廣島商業は良く鳥取の追撃を防いで甲子園優勝者の賞録を示した。

〔廣商〕  
 (中)原田  
 (右)太田  
 (一)灰杉  
 (三)和生  
 (捕)保久  
 (遊)杉和  
 (捕)生保  
 (二)保久  
 (左)久森

〔鳥取〕  
 (中)竹谷  
 (左)多田  
 (投)京谷  
 (捕)千田  
 (一)田森  
 (三)森崎  
 (遊)岩野  
 (H.P.)魚尾  
 (右)坂村  
 (二)大村

打安犠盜三四失	打安犠盜三四失
數對打壘振死策	數對打壘振死策
二九四	二八五
三一七	一〇三五
〇	二

海草中學對靜岡中學 (戸塚球場)

二A對零B靜岡中學勝つ

戸塚球場に於ける第一戦は海草中學對靜岡中學で一日朝八時二十五分より、大島(球)内川(壘)二氏審判の下に行はれ二對零の接戦で海草惜敗。

兩軍四回迄走者を出すも得點の機なく第五回に入り海草二走者を出すも得點に至らず代つた靜岡望月四球に出て鈴木(吉)に送られ投手暴投、捕逸に生還一點を先取六回七回兩軍安打を出すも散發に終り第八回に入り海草に死後三個の四球に満壘となり追撃すると見えたが大塚二捕して止む。代はれる靜岡は劈頭左越二壘打に出て築地の死後田中の三捕に三進鈴木(芳)の安打に一點を加へてゲームを樂にする。第九回は海草神前四野にオーダー良くなるも後援なく二A對零で靜中勝つ、時に十時二十分。

〔靜岡〕	地中
(中)築田	(芳)田川
(遊)鈴木	(三)石月
(捕)寺田	(一)望月
	(二)鈴木(吉)
	(右)下山
	(左)今井

打安	犠盜	三四	失
數打	打壘	振死	死策
二	四	五	二〇二四一

〔海草(先)〕	亦木川野本脇谷塚前
(左)大鈴	(一)荒濱
(一)鈴荒	(三)濱松
(二)荒濱	(中)松山
(三)濱松	(捕)山打
(中)松山	(右)打大
(捕)山打	(遊)大神
(右)打大	(投)神前

打安	犠盜	三四	失
數打	打壘	振死	死策
三	〇	五一一二三七一	

二壘打 鈴木(芳)、今井。  
併殺 海草二。

高松商業對敦賀商業 (戸塚球場)

七對五B敦賀商業勝つ

高松商業對敦賀商業戦は一日十一時五分より藤田(球)久保、島(壘)三法選手審判の下に高商の先攻に開戦。

高商は第一回田上の單打田岡の二壘打に一點を先取二回無爲敦賀は兩回共安打あつたが空しく第三回高商二安打と犠飛に一點を加へ敦賀は三者凡退二一〇にて四回に入り高商無爲の後敦賀猛打を奮い大井、佐田と安打を續け佐田の安打左翼二壘への投球悪く走者二三壘に依り敗因の種を蒔く、投手暴投に大井遠へり栗田の三捕佐田本壘を突きかけたがベースに返へり兩者生く續く城戸佐田とスクイズを試みて成功、猪瀬二壘背後にテキサスして勝因の一點を味方の爲に献ずる。高商は五、六、七回共に走者を出したが敦賀良く防いで入れず、敦賀は五回四安打に敵失で三點、六回に二安打で二點を入れて試合は決し七回にも無死走者を出したが無爲。第八回に入り高商は田岡、伊達佐藤の右中間を抜く三壘打に二點を復し九回にも四球と安打等に一點を加へて追つたが敦賀の得點に及ばざる事二點遂に七A一五で敦賀に名を爲さしめて強豪高松一敗地に塗れ長き恨を戸塚原頭に殘した。時に一時二十分。

〔敦賀〕	林本井田戸瀬川崎
(二)小橋	(右)大佐栗
(三)橋大	(捕)栗城
(右)大佐	(中)城猪
(捕)栗城	(一)猪西
(中)城猪	(左)西洲
(一)猪西	(遊)洲崎

打安	犠盜	三四	失
數打	打壘	振死	死策
四一	二	五〇一三〇二	



〔高商(先)〕 上村石岡岩達藤原佐々木  
 (中)田西(投)碓(三)田山(遊)伊(二)佐(左)堺(捕)佐々木  
 打安機盜三四失  
 數打打壘振死策  
 三一〇一二二四二

三壘打 佐藤。 殘壘 高商 八。  
 二壘打 田岡。 敦商 七。  
 併殺 高商一。

### 準決勝戦

神港商業對靜岡中學

二A對零 神港勝つ

二日は準決勝に入り神宮に於て十時より二試合を舉行した。此の日空はどんより曇つて居るが無風先づ神港商業對靜岡中學に依つて開かれる審判は正田(球)渡部、鈴木(壘)の三立教選手靜岡の先攻に開戦。  
 神港は第一回に中根、後藤と四球に出で西垣、高瀬の驍打に先づ一點を入れ七回に一死走者一二壘に依る機会を逸し八回には劈頭中根が山下張りの強振に右越三壘打して出で後藤の右前安打に一點を加へる。一方靜岡は二回に一死走者一二壘にある時右川盜壘失敗して事無く三回にも下山無死三壘打に出たがスライズを失敗其の後五回と九回に走者二人宛を出したが得點無

結局二A一〇にて神港ナインに軍配上る。

〔(先)靜岡〕	〔神 港〕	三四失	三四失
(中)築地	(中)中根	打安機盜	打安機盜
(遊)田中	(一)後藤	數打打壘	數打打壘
(投)鈴木(芳)	(投)西高	一八三一〇七五	二五五四〇三三〇
(捕)寺田	(左)岸本		
(三)右川	(三)島崎		
(一)堂月	(二)濱田		
(二)鈴木(吉)	(遊)倉田		
(右)下山	(捕)倉田		
(左)今井	(右)高島		

三壘打 下山、中根。  
 二壘打 石川。  
 殘 壘 靜岡七。神港四。

### 廣島商業對敦賀商業

六對二 廣商勝つ

廣商對敦賀戦は前試合と同じ状態の下に野本(球)鈴木、鹽澤(壘)三帝大選手審判の下に廣商の先攻で行はれる。廣商は最初から猛打を浴せ原、田中、杉田の單打に二點を奪取二回にも二死後原四球に出で二盜に成功田中の三壘右を抜く



△第七回 廣商二死後原遊三間を抜いて出たが無爲。神港は一死後平田四球に出で中根第一球を中越安打し本壘打となりて二點を加へる。

△第八回 廣商無爲神港一死にて二走者を出したが得るに至らず。

△第九回は廣商一死にして走者二三壘に依るチャンス來るも西垣投手良く防ぎ久森を三振に原を一飛に終らしめ結局四A一にて神港凱歌を奏する。二時四十分閉戦。

〔神 港〕	打數	安打	二壘	三壘	四壘	失策
(中)中	8	2	0	1	0	1
(一)後	4	1	0	0	1	0
(投)西	4	1	0	0	0	0
(左)高	4	0	0	1	0	0
(三)岸	4	1	0	0	0	1
(二)島	4	0	0	0	0	0
(遊)濱	4	1	0	0	1	0
(捕)倉	4	1	0	0	1	0
(右)平	3	1	0	0	0	1
	34	8	0	2	3	1

〔廣 商〕	打數	安打	二壘	三壘	四壘	失策
(中)原	5	2	0	0	0	1
(右)田	3	0	1	0	0	0
(一)太	3	1	0	0	1	1
(遊)灰	4	1	0	2	0	0
(投)生	4	0	0	0	1	0
(三)杉	4	1	0	0	1	0
(捕)和	3	1	0	0	0	1
(二)保	1	0	0	0	1	0
(左)久	3	0	0	0	1	1
	33	6	1	2	5	3

右三壘	打打打	中。太	根山垣
二壘	打打打	西廣商	灰九八
一壘	打打打	廣商神	中。太
殘	壘壘壘	廣商神	廣商神
試合時間	一時間四十分		

右決勝戦終了後ダイヤモンドに中學校優勝者神港商業ナイン及天覽試合の勝者慶應の代表津田氏整列平沼副會長より神港主將西垣選手へ表彰狀を倉選手に優勝旗を授與し慶應へは表彰狀を授けて閉會式を終り目出度く第五回大會を終る。

競  
技  
概  
評

# 光榮ある天覽試合

蘆田公平

## 慶大の猛打

天覽の光榮に浴する試合

は六大學リーグの優勝チームたる早大と第二位を占めた慶大によつて行はるゝ事となり圖らずも再び早慶戦によつて滿天下の人氣を煽り、我が野球の眞價値と之れを包む應援團及びファンの熱性狂を天覽に入れた事は我が野球關係者の一人として感泣する次第である。

早大が一旦優勝したのに再びニガ手の慶大に相對する

るのは歩が悪く自然固くなつてゐたそれに慶大は前回の耻を



慶大 宮武 投手

そゞぐべく光榮ある天覽の試合に枚を啣んで現はれた、果して早大はリーグ戦頃の意氣もなく、しばらくの休養はかへつ

てその力を落したに反し慶大は宮武が著しい進境を始め勝氣な戦法で最初から早大を壓倒した。早大の投手小川はコントロール悪くそのイン・ドローは慶大のねらふところとなり一回から危機をふくんでゐたが三回遂に慶大満塁の折町田を生かした後で慶大の主將岡田が2-1で中堅越の三壘打を破つて一擧に三點を加へたこの場合中堅矢島が今少し

である。此の岡田の三塁打により慶大はすつかり調子づいたに早大の動搖は烈しくなり遂に試合を決定するものとなつた。斯くてこの回慶大が獲得した五點の開きは勝たねばやまぬ氣魄のものと氣負けたものとの差を益々大きくしてしまつた、そして遂に早大は小川ノックアウトされ松木代つたが、これも二安打と三つの四球に潰滅し多勢が三度リ、一フに立ち辛うじて慶大の猛撃を喰ひ止めた。早大の打撃は完全

に宮武に牛耳られ十二對零といふ未曾有のスコアを獲じて早大の敗北となつたのは、あまりに意外の結果であつた。かく試合が一方に傾いて面白くないものとなつたが早大も最後迄闘志燃ゆる如く反撥力を見せたのでスコアの大きい割に試合の緊張味は失せなかつた、又兩軍應援團の一糸亂れざる應援は此試合として意義あるものたらしめた。

# 中等學校戰

## 第一回戰

### 神港の大勝

諏訪の投手中村(三)日頃の威力なく球は荒れて最初より神港に打たれた神港は第一回の満塁のチャンスを選したが二回三塁失と二本の安打に二點を入れ更に釣が四球で倉に送られると中根の二塁野手高投があつて先づ一點を入れ續いて後藤の安打西垣の二塁打と遊失四球二點を加へて一塁五點を入れたので諏訪は投手を左利の中村(好)に代へ六回には伊藤の安打あり四球死球が續き中村(好)の一二壘間安打と遊失に三點を返へしたが七回に神港は四球三つの満塁となつた處へ西垣の安打があつて二點を加へ結局九對三で神港が悠々勝つた神港の守備は水際立つて中學チームとも思はれないものがあつた。殊に西垣のカーブは諏訪勢に大きな痛手を負はしてゐた。

### 廣島の打撃

廣島と鳥取は前者に生田、後者に京谷と云ふ中學野球界切つての名投手が對峙してゐる。素暗らしいピッチングを示したので大會隨一の好試合となり最後迄手に汗を握らすやうな場面が続いたのであるが一回京谷がまだ肩の定まらぬ折に打たれたのが原因して鳥取の敗北となつた、即ち廣島は安打で出た二走者を置いて灰山が高目の速球を喫つて三塁打として二者を入れ、自らも杉田の犠飛に還つて一點を加へて鳥取を押した、而し鳥取は四回に二安打が續き京谷のバンドで進塁した後又四球があつて一死満塁となつた折田村が遊撃を抜いて二點を入れて追撃した、爰で尙一死で二壘に走者があつたが後が續かなかつた、かうして試合は面白くなつたが鳥取は試合を轉覆するだけの打力なく、廣島も又京谷が後半の出来良きに押へられて引放す事は出来なかつた、鳥取は投手と守備によいが打撃が揃つてゐないので廣島に敗けたのである。

### 敦賀の強打

敦賀高松共剛球投手を立て第一回裏高松二安打と一犠打で一點を入れ三回にも二安打を飛ばして一點を加へて強打振を見せリードしてゐたが第四回に入るや敦賀奮起し五安打を釣瓶打ちにあひせ合計三點を入れ一點をリードし五回も亦四本の安打で三點第六回にもフーンドランで一點を入れて徹頭徹尾ヒツテングに出で高松の名投手碓石をして顔色なからしめた高松も第八回に三塁打を打つて二點を得敦賀に迫り最後の回に好打順を迎へて一點を占めたが遂に及ばず敦賀は十六の安打を飛ばして非常に元氣なゲームを見せ大いに氣を吐いた。

### 準決勝戰

#### 静岡雄圖空し

三壘を占めたが大亦敬遠の四球の後鈴木三振に打ち取られたものにならず八回二死後松本山脇四球に出で捕逸に二三壘を占むるや打者を亦四球に敬遠し大塚を軽く打取るなど静岡なか／＼味を見せ器用な策戦は荒削りの海草をして零敗せしめた。

神港は一回に静岡の投手鈴木の本塁球力なきを利して四球二つを選び高潮の犠飛で一點を上げて押した、之れが抑々静岡の痛手であつたが、尙静岡は途中に挽回する機會を二度も迎へながらそれを空しくして敢へない最後を遂げた。

### 静岡の巧妙さ

静岡は第一回第二回に安打で出塁したが海草の好守で重殺に遭ひ點を爲さなかつたけれど終始押して居た第五回望月四球に出で鈴木の本塁打と二敵失で一點を獲得第八回今井左翼越に二塁打して出で田中の犠打に送られ鈴木遊撃を壘手後逸して今井生還静岡二點海草は七回二死後二安打を連發して走者

静岡が四回に迎へた好機は下山の三塁打に始まり今井の四球二盗となつて無死走者三二壘により第一打者築地の順となつた、こゝで築地は飽く迄打ち氣に出ると神港投手西垣は巧みに打者の氣を抜いてカーブを連投し遂に築地を三振に屠つた、次の田中はスタキズに出たのを神港バツテリはその逆をついてウエストを投げ山下を本壘に刺し田中を遊撃ゴロに討取つて神港は危機を逃れた。

静岡はその次ぎの五回にも神港に肉薄した、望月四球で鈴



木(吉)のバントに送られ下山又四球、二死後築地も四球に満塁となったが田中は又しても西垣のカーブを一塁へ凡打して此の機に乗ずる事が出来なかつたのは抑々運の盡きである、その後は却て神港が優勢に打つて出で野中の攻撃は止まつてしまつた。

神港の勝利は矢張西垣の巧みな投球、即ちカーブのコントロールと速球の配合よろしきによる事が多い。

### 廣商よく攻む

教商の佐田は前日の奮戦に疲労して球速なくコントロールも亂れてゐるに對し廣商の生田は前日に劣らぬ堂々たるピッチングをしてゐた、そこに勝敗の差があつたのではあるまいか、廣商は第一回からよく打ち原二遊間へ田中左翼へ安打して太田のバントに送られ灰山四球の満塁、杉田右前へ安打して三原還り生田の遊ゴロを野手二塁へ送つたが壘手がフアンブルしたので田中も還つた第二回廣商二死で原が四球に出で二塁を盗み田中とのヒットエンドランが成功して原生還して三塁を上げたのに教商は幾分押され氣味であつたが第三回になつて一點を拾つた教商は四球に出た洲崎を大井の安打で三塁へ進め大井と相呼應して本二塁をダブルスチールして一點を上げたが廣商の追撃は益々鋭く第四回三塁の悪投に生きた

生田四球に出た保田が原の中堅安打で一塁に還る教商は粟田が左中間で本塁打して一點を返し第五回に廣商は和田生田の安打に久森の三衝悪投があつて又一點、第七回に教商は無死で城戸猪瀨の二安打を続けたが西川の三樂飛球で猪瀨が併殺されたその儘六對二で廣商が勝つ廣商は聞まつたチーム、教商はムラはあるが打撃がいゝ只守備がまづいので斯んな結果となつたのであらう。

### 優勝戦

#### 投手力の相違

神港と廣商の決勝戦は眞に我が中學球界のナンバーワンを定めるものとして非常に期待されたが廣商の投手生田は前二日間の投球によりて疲労し速球のスピードが失せてゐるに反し神港の西垣投手のカーブは依然として變らざる威力を備へてゐた、そこに勝敗の分岐があつたのである、而も廣商は一回先攻し原の安打後田中のバントあり太田の四球があつて形勢は有利に展開されたが之をのし切る力がなく西垣のカーブにあやつられた、それに反し神港は中根四球を選んで出で後藤は不覺の三振に倒れたが中根はすかさず是を窃み投手の

暴投に三塁迄進み、そこへ西垣の三塁打を迎へて順潮な一點を拾ひ二回にも倉平田中根の安打がついて又一點を加へた三回死後に廣商は太田灰山の三塁打がついて一點を取り愛で追及すべき處となつたが、後が凡打したので折角の機會をそのまゝ逸した、その後兩軍は共によく打ちよく守り五分の試合であつたが、七回神港の中根が一走者を置いて本塁打したので終ひは存外に段がついた、廣商は投手の疲労さへなけばもつと接戦しただらうが、何しろ何處となく脆弱な處があるに、神港は百鍊の強者だけによい試合度胸を有してゐた。

昭和五年十二月二日印刷  
昭和五年十二月五日發行

【非賣品】

發行所

東京市四谷區藤ヶ丘  
明治神宮體育會

編輯人

宮木昌常

印刷人

東京市神田區錦町三丁目五番地  
白橋龍夫

合尾會社印刷所

神田區錦町三丁目五日番地